

妊娠馬のライトコントロールについて

宮越大輔

2006年 日高軽種馬農協 荻伏診療所勤務

2008年 日高軽種馬農協 静内診療所勤務

こんにちは。静内診療所の宮越です。

皆さんの間で空胎馬のライトコントロールがずいぶん定着したように感じます。

今回は妊娠馬へのライトコントロールについてお話させていただきます。

よろしくお願いいたします。

1. 妊娠馬ライトコントロールの方法

分娩予定日の8-10週前からライトコントロールを始めます。60Wの白熱電球もしくは蛍光灯を使用し、昼14.5時間、夜9.5時間の環境を作ってください。日中放牧の場合は朝の放牧前と夕方の集牧後に放牧時間と合わせて14.5時間の明るい時間を作りましょう(例:午前5時から放牧まで - 集牧から午後7時半まで)。ライトコントロールは毎日決まった時間に行うことが大切です。行う際はぜひタイマーを使用しましょう。

2. 妊娠馬ライトコントロールのメリット

- ・分娩後の卵巣静止(無発情)を予防できる
- ・妊娠期間を短縮できる

分娩後、初回発情はあったけれど、次の発情が来ないという卵巣静止は早い時期に分娩した繁殖牝馬で問題となる場合が多いようです。この様な卵巣静止を予防するためにライトコントロールは効果があるといわれています。また、近年の報告では妊娠馬にライトコントロールを行うことで妊娠期間が7-10日間短くなるといわれています。妊娠期間を短縮し、より効率的な生産を行う手助けになると考えられます。

3. 妊娠馬ライトコントロールのデメリット

- ・初回発情での排卵が早くなる

- ・電気代がかかる

ライトコントロールを行うことで、分娩後初回発情の排卵時期が早まります。そのため、子宮の回復期間が短くなり初回発情での交配は推奨できません。

しかし、初回発情での交配を見送り、分娩後2発情目での交配を行う場合には初回発情での排卵が早期に起こることはメリットとなります。初回発情での排卵後、PGを用いて発情誘起を行う場合も同様なことがいえます。初回発情での交配を見送るのであれば、ライトコントロールにより初回の排卵が早まることで、交配時期も早くすることが可能です。

電気代は契約により異なりますが、60W白熱電球では1円/1時間、60W蛍光灯では0.35円/1時間くらいとなるようです。分娩予定日の8週前から分娩後4週まで実施した場合(約3ヶ月間)、1頭当たりの電気料金は約210円(蛍光灯使用)から約600円(白熱電球使用)となります。

4. まとめ

今回は妊娠馬のライトコントロールのメリット・デメリットについてお話させていただきました。ライトコントロールの実施についてご検討いただくきっかけになれば幸いです。

『うま獣医よもやま話』からのお知らせ

『うま獣医よもやま話』では、執筆テーマを募集しています。獣医学的なことで皆様を知りたいことや疑問に思っていることなど、HBA獣医師に執筆してほしいテーマをメールまたは口頭にてお知らせ下さい。よろしくお願いいたします。

※受付アドレス

(yomoyama@hba.or.jp)